

活動区分	イベント企画型	連携先	スポーツ施設

## ～ 兵庫県立武道館 武道祭における体験型コンテンツの提供 ～

### 活動の様子



### 取り組む課題

本事業における取り組み課題として、来場者の多様化に対応した新規プログラムの企画が挙げられる。武道に馴染みのない層や子ども連れの来場者が参加しやすく、かつ武道館という施設特性を活かした魅力的なプログラムを設計する必要があった。



### 本学(学生)の役割

事業において、学生は企画立案から運営、振り返りに至る一連のプロセスを主体的に担った。具体的には、来場者の特性やニーズを踏まえた新規プログラムの企画立案、必要物品の準備および運営計画の作成を行った。

### 企画・活動概要

兵庫県立武道館が開催する武道祭の有料ブースにおいて、体験型のコンテンツを企画・運営する機会を提供した。武道祭では、武道競技の体験(無料)のほかに、縁日コーナー(有料ブース)が設けられており、今回学生は縁日コーナーにおける企画に挑戦した。主催団体からは、企画の内容、料金設定、参加人数の設定、開催時間などの裁量権が与えられた。ロープワークでは、材料費から原価を計算し、1回200円でブースの提供を行った。当日の参加者は38名であった。

### 活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

本事業を通じて、対人能力の向上がみられた。実際の運営場面では、ロープを編むことが難しい子どもに対して、手本を示すだけでなく、一緒に手を動かしながら段階的に指導する様子が見られた。また、子どもと目線を合わせるために、しゃがんで説明する姿もみられた。



### 経緯・背景・目的

兵庫県立武道館では、武道の振興を目的として、年に1回「武道祭」を開催してきた。近年では、武道種目に加え、子どもを対象とした縁日ブースや食育体験、マルシェの実施など、来場者層の拡大を意図した多角的な展開がなされている。こうした中、本年度は大学生の視点を活かした新規プログラムの導入が求められ、本企画を実施するに至った。

本事業の目的は、本イベントへの参画を通じて、企画立案から運営、評価に至る一連のスポーツイベントの経営プロセスを実践的に経験することで、学生の経営力(課題発見力、企画力、実行力、振り返り能力)の向上に資することである。

### 指導教員および関係者の紹介

#### <指導教員>



人間社会学部  
人間健康学科  
講師  
与那覇 秀勲(ヨナハ ヒデキ)  
＜専門・担当科目等＞  
スポーツ経営学  
担当科目「スポーツ組織論」  
「スポーツ施設マネジメント」等

#### <関係者・企業等>

兵庫県立武道館  
(指定管理者:公益財団法人兵庫県スポーツ協会ほか)  
事業課長  
水嶋 義広(ミズシマ ヨシヒロ)